

# 新総長、宝金氏に

## 選考会議 投票で最終決着

ほうきんきよひろ 1979年北大医学部卒。92年北大講師、2001年札幌医科大教授、10年北大教授、13年同大病院長などを経て19年同大保健科学研究所特任教授。脳神経外科医で脳科学領域が専門。日本の科学者の内外に対する代表機関「日本学術会議」会員を務めるなど中央省庁や企業との人脈が広い。65歳。



宝金清博氏（同氏提供）

# 号外

<編集・発行>

北海道大学新聞  
編集部

<URL>

hokudaishinbun.com

（お問い合わせ・情報提供  
もこちらから）

次の発行予定は9月

本学総長選考会議は2日、保健科学研究所特任教授の宝金清博氏を新総長に選んだ。今後、文部科学相が任命する。本学は10月中の就任を希望しており、今年度中に任命されると、任期は2026年3月まで。

総長選考会議は公開質疑や同会議によるヒアリングのほか、宝金氏が4割の票を集めトップとなった教職員らによる投票結果を材料に、同氏が本学の「望まれる総長像」に合致していると判断し、選出した。

同会議は今回、まずは合議により選出するとしていたが、決定できず投票に。宝金氏は10票のうち過半数となる6票を獲得。候補者だった笠原正典、横田篤の両氏はそれぞれ2票だった。会議は午後3時から始まったが、発表は午後8時半ごろになった。

同会議は宝金氏を選んだ理由として構成員とのコミュニケーション能力に長け、強いリーダーシップを備えていることのほか、経営面で実効性のある施策を提案する能力に優れていることを挙げた。また、社会との様々なネットワークを構築してきた実績も評価した。

宝金氏は18年度まで6年間、北海道大学病院長を務めた。歴代で6年間務めたのは同氏のみで、総長選中の北海道大学新聞とのインタビューでは、病院長時代の実績も今回総長選に出た理由の一つだとしていた。

宝金氏はインタビューで、本学の現状に対し厳しい見方を示していた。指定国立大学法人への申請見送りや、客観的指標による運営費交付金の傾斜配分部分の減少のほか、企業などとの連携の不足といった現執行部の課題を指摘。それらを踏まえ、「指定国立は絶対取るように、簡単ではないが努力をする」と話していた。

また、「経営的収入」などにより人件費削減を止める目標を打ち出す。経営的収入とは不動産運用やコンサルティング企業の設立などで、牛乳などのモノの販売以上の大きな収益を狙う。宝金氏は経営的収入について「教員に負担をかけず、大学が収入を得る総長の大事な仕事の一つ」と話し、不動産運用では、教育研究にかかわる宿泊施設や学会場などの誘致を例示した。

国立大学を取り巻く環境が変わるなか宝金氏の危機感強いとみられ、インタビューでも指定国立の他大学の取り組みを引き合いに出したり、「国立大学の在り方が変わっており、新しい方向に向かわないといけない」と述べたりしていた。



総長選考会議が開かれた大学事務局（2日午後3時半ごろ）